

2,024年 2月16日

朝日カルチャー 野外の自然観察
福津市 上西郷川～竹尾緑地 「希少な生き物を育む水辺と森へ」
参加者 21名+1名(スタッフ)

福間駅に集合し、西郷川沿いに歩き始め、支流の上西郷川の合流地点からが本番。ネムノキ、センダン、コブシ、ウバメガシ、イヌビワなどを観察しつつ、洪水調整池へ。水辺まで近づける憩いの場となっている。上西郷川に戻り、水辺まで下りるとクレソンやウチワゼニグサ(タテバチドメグサ)が、流れの中にまで茂っている。

上西郷川は、以前のコンクリートの三面張りの護岸をやめ、川の自然の再生をめざし、片方をなだらかな草地の斜面にし、流れに緩急やカーブをつけたりした。おかげでエコトーンが復活し、生き物も増え、川遊びもでき、洪水に対しても安全な川となっている。

土手の上の並木には、サクラやカエデなど市民が選んだ木々が植えられている。ヒトツバタゴ(ナンジャモンジャ)、トウカエデ、イチヨウなど、今は葉を落としているので、樹皮や枝ぶり、葉や実の名残り、冬芽などに注目しながら、見て行く。ミズキ、ハナミズキ、クヌギ、コナラ、クリ、マテバシイ、クスノキなど、結構いろいろある。そんな中、受講者が、ケンボナシを発見、実が枝ごといくつも落ちている。果軸は、もう、レーズンのようにネチツとした甘さになっている。下見では通らなかった所で、存在を知らなかったので、感激。その後、車道に出て、イオンモールの植栽を見ながら進む。そこは、ギユウギユウに密集して植えられているが、やがてその土地に合ったものだけが生き残るということらしい。ジンチョウゲが香り始め、モミジバフウの実は今が拾い時。12時少し前に竹尾緑地に到着。



昼食後、緑地内の観察。ハンノキは、雄花が垂れ、雌花も赤くなり、受粉どき。カヤネズミの巣があり、水辺では、たくさんのニホンアカガエルの卵塊やオタマジャクシを間近に見る。カスミサンショウウオのコイル状の卵も。これらは今の時期しか見られない。いずれも絶滅危惧Ⅱ類。ツクシやセリを見つけたり、菜の花畑もあったり、のどかな早春の候を楽しめた、と思う。

担当 佐伯、久保田(記)

1月 撮影